



2008.March



今号の内容

前
に
卒業・修了生によるコメント

学園を築立つ

海を越えて大いに学ぶ！
留学生レポート

異文化随想

現代GP

現代的教育ニーズ
取組支援プログラム

『遍路文化を活かした
人間教育への取組み』

～ 研究室だより～

「栗田研究室」&「内藤研究室」ほか

学園だより

GAKUENDAYORI

表紙デザイン

芸術系(美術)教育講座 准教授 内藤 隆

表紙題字

初代学長 前田 嘉明

◆◆◆ 学園だより No.57 ◆◆◆

CONTENTS

2008.3

| | | |
|--|------------------------|-------|
| 春を待つ心 | 学 長 高橋 啓 | 2 |
| 平成19年度学生支援を振り返って | | |
| 卒業・修了生の皆さんの活躍に期待します | 理 事 村田 博 | 3 |
| 学園を築立つ前に | | 4 |
| (学部) 秋口博美, 川本美穂 (大学院) 大丸拓也, 片山隆志 | | |
| 退職にあたって | | 6 |
| 安藤 幸 (生活・健康系), 橋本泰幸 (芸術系), 松原一義 (言語系) | | |
| 村田勝夫 (自然系), 吉田 肇 (生活・健康系), 阿部美佐子 (附属中学校) | | |
| 今, 求められている教師像 | 教員就職支援チーフアドバイザー 榊 博 | 12 |
| A L B U M | | 13 |
| 部活でもガンバっています | | 14 |
| 音を楽しむと書いて『音楽』 | 合唱団 “tadpole” | 山田 亜耶 |
| 広げよう, 手話の輪 | 手話サークル 「ぱぴぷぺぽ」 | 澤原 宏希 |
| Departure's | Departure's | 嵯峨山雄一 |
| 楽しみ…entertainment | ソフトボール同好会 | 瀬部 貴史 |
| 異文化随想 | | 16 |
| 色即是空 | 秋山 容洋 (大学院) | |
| 短い旅行, 長い余韻… | 康 允民 (特別聴講学生) | |
| 第24回鳴潮祭を終えて | 第24回鳴潮祭実行委員会委員長 橋本 早菜 | 17 |
| 研究室だより | | 18 |
| 放射線と光と教材と | 栗田 高明 (自然系 (理科)) | |
| 御礼およびご挨拶に代えて | 内藤 隆 (芸術系 (美術)) | |
| 授業紹介 | | 19 |
| 授業分析演習 | 小野瀬雅人 (授業開発) | |
| 法学ゼミ | 麻生 多聞 (社会系) | |
| こんにちは附属です | | 20 |
| 継承される遊びや生活 | 附属幼稚園 | 濱本 薫 |
| 幼・小連携に思うこと | 附属小学校 | 森田 範子 |
| 附属中学校創立60周年記念式典 | 附属中学校 | 大泉 計 |
| みんなで「レッツ!ダンス!!」 | 附属特別支援学校 | 新田 将人 |
| 健康手帳「ビーナスの悩み」 | 廣瀬 政雄 (心身健康研究教育センター所長) | 22 |
| 学生表彰について | | 23 |
| 現代GP「遍路文化を活かした人間教育への取り組み」 | 大石 雅章 (社会系) | 24 |
| 図書館だより | | 25 |
| 学生会・院生会だより | | 26 |
| 巡る季節~出会いと別れ~ | 與那嶺裕太 (学生会会長) | |
| 仲間とともに | 南 和美 (院生会会長) | |
| 知っていますか?構内交通ルール 守っていますか?マナー | | 27 |
| 行事予定 | | 28 |
| 投稿 かんたんレシピ | | 28 |
| 編集後記 | | 29 |

春を待つ心

◆ 学長 高橋 啓



立春を過ぎたというのに、今年は例年になく寒い日が続く。北国からは豪雪の便りがしきりである。温暖な鳴門の地でも寒風がひときわ身にしみる。しかし、植え込みの

沈丁花のまだ固いが、赤い蕾などに目をやると、自然はもう着々と春の到来に備えている様子を見て取ることができる。少年時代を閉鎖的な山里で育った私には、早春の季節は、子ども心にもうすぐような春への期待と、山の向こうの「未知なる世界」への憧れの気持ちをかき立てられる季節でもあった。

この前、私は久しぶりにDVDで映画を見た。昨年、話題となった「ALWAYS 3丁目の夕日」である。映画の舞台となったのは、あの東京タワーが竣工する1958（昭和33）年の東京の下町、今からちょうど50年前の物語である。思えば、高度経済成長期のはしりの時代とはいえ、物質的にはまだまだ貧しかった時代である。しかし、一方では、人々は自分たちの未来や日本の将来に明るい夢と希望を託すことができた幸せな時代でもあった。そして、何よりも人間が人間を信じることができ、それを支える人と人との結びつきや、あるべき地域コミュニティがそこにはしっかりと根を張っていた。

私たちが生きている現在は、社会が急激に変容するなかで、家族や地域、学校、職場など、これまで人間関係を支えてきたコミュニティが崩れ、

人と人との繋がりが次第に希薄となり、社会全体がイライラしたストレス状態に陥っているといえよう。映画「ALWAYS 3丁目の夕日」は、単なる「古きよき時代」へのノスタルジーではなく、いつの時代にも、家族や地域、学校といった日常的な生活の場で、人間が人間としてあるためには大切に守っていかなくてはならないもの（人間関係、社会関係）があるんだということを、私たちに語りかけてくれているようであった。

さて、鳴門教育大学が法人化されて5年目の春を迎えようとしている。大学を取りまく情勢には厳しいものがあるが、こんな時こそみんなで力をあわせて事に処していきたいと願っている。私は、大学というさまざまな人や要素から成り立っている組織の歩みは、その時々においていろんな困難な問題や課題に直面して、時には左に傾いたり、右にぶれたりしてジグザグに動いてはいるが、全体としてみれば概ね規定の進路というか、ほぼ真ん中を進んでいるというのが本来の姿ではなかろうかと思っている。問題は右や左にぶれた時に元に戻そうとする復元力であり、その復元力の強さの度合いの中にその大学の力量が問われていると思う。大学の復元力は何によってもたらされるかといえば、それは一にかかって、私たち一人ひとりが自分たちは鳴門教育大学という運命共同体の一員であり、私たちの力で鳴門教育大学を支えているのだという一体感にあると考えている。みんなを力にあわせて、見事、荒海を乗り切りたいと強く願っている。

卒業・修了生の皆さんの活躍に期待します

◆ 理事（学生支援担当） 村田 博



学位記授与式を終えた皆さん、ご卒業・修了おめでとうございます。教員養成を目的とする本学校教育学部を卒業された皆さんは、教員を主とする教育機関や、公務員・会社員、大学院とそれぞ

れ進む道は異なっていますが、大学で身につけた知識・技能・経験を生かして、それぞれの道できっと元気よく羽ばたいてくれることでしょう。また、大学院を修了された皆さんにおいても、学校現場に復帰される現職教員の方々をはじめとして、新たに教職に就かれる方、大学院で修得された技能・資格を生かした職に就かれる方、さらに研究を続けられる方など、進路はさらに様々でありましょう。特に大学院において、3年間の学修を終えられた長期履修学生制度第1期修了生の皆さんがおられます。教員資格取得のための学習と、大学院生としての研究を両立させる困難さの中で、さらに教員採用試験にチャレンジされ、大変なご努力であったことでしょう。皆さんの今後の活躍に大いに期待しております。大学としても、この制度をより確かなものにするために努力して参ります。

本年3月で、「国立大学法人鳴門教育大学」も発足以来4年を経過することとなりました。法人化当初は、その新体制への移行でバタバタしており、入学された皆様には種々ご迷惑をおかけしたことと思います。でも本学は慌てず騒がずじっくり体力をつけてきたと自負しております。

例えば就職支援事業につきましても、教員就職率全国ランキングワースト5(平成15年度卒業生)からの脱却に向けて就職支援室を整備し、教員就職支援チーフアドバイザー・大学院生就職支援ア

ドバイザーを配置することができました。その成果が、ここ3年にわたるベスト10入りとしてあらわれました。

本学の学生支援事業は、教員養成・現職教員研修という大学の目的に沿って行われてきております。学部段階での合宿研修(1年次、2年次及び3年次)をはじめとして、課外活動支援やボランティア紹介事業も、将来の教員就職を視野においたものとして実施しております。大学祭実行委員会との話し合いにおいても、プログラムの設定・実施にあたって、教員養成という視点での指導が強すぎるという批判を少なからず受けていることは承知しております。ただ、この種のズレや行き違いは、皆さんがこれから経験されるであろう実社会では、もっと異なった形であっても、この程度では収まらないことでしょう。その時、学生生活におけるこれらの経験がきっと生かされるはずです。

最後に、関係都府県・市教育委員会採用担当指導主事の皆さんが口を揃えて言われること(エール)を書き添えておきましょう。

「教員養成専門大学・大学院の卒業生の方々は、授業実践だけでなく生徒指導面においても、在学時代にしっかりした理論と実践を学ばれており、大変期待しております。その学ばれたことを、実際に身体で表現し実行していただきたいと思っております。この強みを生かしてください。



(学校教育学部2年次生合宿研修)

学園を巣立つ前に

走りたくて 渦×2

◆ 学校教育学部 秋 口 博 美

やっつけられるかという不安と、やっついで！という希望を持ちながら入学して、4年が経ちます。本当にあっという間の出来事でしたが、この4年間で、ええ出会いや経験をたくさんさせてもらいました。きっとそれらは、鳴門教育大学でなかったら出会えなかったんだろうなと思います。

タイトルにある「走りたくて渦×2」これは、陸上競技部のTシャツ（渦T）の裏面に書かれている言葉です。

鳴門教育大学を巣立っても、夢に向かって走りたくて渦×2していた自分と、陸上競技に対する熱い思いを忘れることなく、楽しい人生を送りたいと思います。

この4年間に会った全ての方へみなさんが、優しく、時に厳しく接し、暖かく迎えて入れて下さったから、今の私があると思います。

ともに悩み、喜び、親身になってくださりありがとうございました。ほんまに楽しい4年間でした。私は、4月からも一生懸命頑張ります。

新しい場所で、走りたくて渦×2しています。皆様のご活躍を心より祈念いたしております。また、いつか。どこかで。

〈小学校・体育〉



～大切なこと～

◆ 学校教育学部 川 本 美 穂

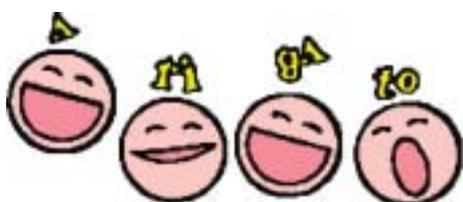
「先生、本当の先生になったら担任してな。」そう実習先の男の子が私に言ってくれました。春から新米教師になる不安いっぱい私にとって、その言葉はとても心強く、また心から子どもの気持ちを嬉しく思いました。「いつも人に助けられるなあ」そう思って振り返ると、私は本当に多くの人に支えられ、守られて過ごしていました。

私がこの4年間で得たもの、それは子ども達からの暖かい言葉や笑顔、同じ夢に向かって支えて

くれた家庭科のみんな、そして期限を押し倒しても辛抱強くレポートを待って下さった家庭科の先生方、悩んで泣きながらも前に進もうと一緒に頑張った女バレのみんな、いつも勇気づけて励ましてくれた親友、そして私のためにタバコを止め貯金を始めた父親と高熱で寝込んだ時に広島から駆けつけてくれた母親一。まだまだ大勢の人たちに囲まれて私がいました。私にとって、この鳴門教育大学での4年間は、多くの人々の優しさや暖かさに気付くことのできたかけがえのない時間でした。

「いつも謙虚に、人を敬うことを忘れるなよ。」私が成人式の日にかからもらった言葉を、本当に大切なことだと感じられた4年間でした。

〈小学校・家庭〉



学園を築立つ前に

長期履修生

◆ 学校教育研究科 大丸拓也

“0からのスタート”—他大学に所属しており、三年生のときぐらいから教師になりたいという想いが強くなっていった私にとって、この言葉はとても魅力的でした。しかしながら、「本当に自分でも大丈夫なのか？」という不安があったため、何度も事務職員の方に質問や相談をする日々もありました。

この3年間で一番思い出に残っているのは最初の年です。一言で表すなら『激動』です。長期履修生は学部と大学院の授業を一緒に履修していかなければならず、一日平均4コマを超えるスケジュールでした。集中講義も併せると、一年目で86単位ほどとっていました。(今からもう一度やれと言われても無理な話です…)しかし、初めて学ぶことや興味のある内容ばかりだったので、とても充実した日々を過ごせたと思います。

鳴門教育大学にきて今までに学ぶことのなかった「人に教える」ということの難しさや奥深さ、楽しさなどを少しだけ理解できたような気がしません。また、地域の小学生対象に行われた「算数おもしろ教室」など、貴重な体験もすることができました。“教育にゴールはない”—このことを念頭におき、今まで学んできたことを活かし、学び・考え、そして教え続けていきたいと思います。

〈教科・領域教育専攻 自然系コース (数学)〉



出会い 学び そして発見

◆ 学校教育研究科 片山隆志

時間の経つのは早いもので、大学院修了のときを迎えようとしています。この2年間で新しいことを学ぶことの楽しさや、真実を明らかにする研究のおもしろさを再認識しました。

大学院ではプランクトンの季節変動や分布について研究しました。実際に観察をしているときはおもしろいのですが、観察結果を元にまとめていく過程の難しさを痛感しました。現場にいたときは、教科書に示された観察・実験を行うことが多く、明確で都合のよい結果が出るのが、いつの間にか当たり前に感じるようになっていました。自然科学の研究は今わからないことを明らかにしていくので、結果が予想していることと異なることが多々あります。研究計画や条件設定が大切に

あることや、結果が期待するものでなくても、その結果が後の研究の道しるべとして役に立ち、重要なことであることがよくわかりました。

大学院の生活は、現場とは違った面で忙しかったですが、有意義な時間を得ることができました。その中で、専門性を高めることができ、新しい友との出会いがあり、また教壇に立つ楽しさを改めて感じるすることができました。春から勤務校へ帰るわけですが、この大学院で考えたこと、学んだことを十分にいかしていきたいと考えています。

〈教科・領域教育専攻 自然系コース (理科)〉





退職にあたって

学生と共に歩んだ22年間 ～夢を追い求めて～

◆ 生活・健康系（保健体育）教育講座 安藤 幸

昭和61年4月から平成20年3月末日まで、22年間創作ダンス部の顧問でした。創作ダンス部の1年間の大きい行事は、創作舞踊公演です。公演は、外部から見ると踊って楽しそうに見えるかも知れませんが、なかなか骨の折れる仕事です。1年前に会場を予約し、公演に発表出来る作品を1年間蓄えていきます。公演3ヶ月前の12月からは、公演の後援依頼、プログラム広告依頼、ポスター・チラシ・チケット作り、小学校・中学校・高等学校にご招待状を持参しての挨拶回り、大学の教職員の方々へのご招待状持参、OGの先輩への招待状発送です。それらが、一段落するとやっと作品作りや練習に入ります。公演1ヶ月前には、照明プラン、進行表、スタッフとの打合せ、舞台衣装作り、お弁当の手配となります。一週間前には、会場となる舞台での練習と前日のリハーサル、当日の朝の本番同様のリハーサル（ゲネプロ）をこなして、やっと本番を迎えます。公演後は、残務整理です。プログラムに広告を頂いたところへの挨拶まわり、ご協力頂いた方へのお礼状発送、そして最後に、一番大変な会場費や印刷費などのお支払いです。これらの全ての仕事を終えた時、「今年も公演を開催出来てよかった。来年もまた頑張ろう！」と力が湧いてきます。これらのことを学生と共に22年間続けてきました。

鳴門教育大学創作ダンス部の学生が、部活動で得たものは、何なのだろうか？多くの時間を割いて、厳しい練習をして、多くの雑用をこなしてまで、何故部活動を続けるのだろうか？平成19年秋

に出版した「創作ダンス部22年の歩み」のなかに寄稿した学生は、次のような感想を述べています。「お互いに支え合って学生生活ができた。1つ1つの目標を立てて、それを実現していった。苦しくてもやり通さなければならなかった。目的を達成した時の喜びがあった。表現する楽しさがあった。人との交流があった。人前でパフォーマンスする時の度胸がついた。内気な自分を克服できた。教員になるための基盤となるものを得ることができた。」などです。厳しい状況の中で、「諦めないで夢を追い求めて」頑張った学生の笑顔が忘れられません。

鳴門教育大学に赴任して創作ダンス部の顧問になり、学生と一緒に沢山の活動が出来たことを嬉しく思います。退職後は、同じように身体運動を介して、多くの高齢者との係わりの中で生きていく道を進みたいと思っています。多くの方々のご支援のお陰で思い出の多い鳴門教育大学での生活になりました。心から感謝申し上げます。有り難うございました。



ダンス部OG会（平成20年1月5日）



退職にあたって

「見えるはずの世界」を見る美術教育にかけて

◆ 芸術系（美術）教育講座 橋本泰幸

音楽家は彼らが生み出す音によって、私たちに聴く喜びをもたらしてくれます。彼らがいなければ、私たちは雨や風、川の流れや波の音、動物の鳴き声や人の声など、自然が生み出す音だけを聞くにとどまっていたのかもしれない。同様に、画家や彫刻家は、その作品によって新しい造形世界を私たちに見せてくれます。彼らがいなければ、見る喜びは、外界の景観や風物、人や動物の表情あるいは所作だけが対象になってしまったでしょう。

自然や動物、あるいは人との交わりも確かに心を和ませ、時には感動を呼びます。しかし人間は人間に進化した時、絵を描き、ものを作り始めました。それは生きていく上で必要な行為でもあったのですが、この時人間は、眼前の「見える世界」を越えて、共同体が必要とする「見えるはずの世界」を創造したのです。それは当初プリミティブな祈りや呪術のためのものであったと思います。が、こうした自然宗教の多くは、やがて高度に発達した国家的あるいは世界的規模を持つ諸宗教に吸収されてゆきます。そして、こうした倫理的宗教はその舞台装置である神殿、寺院、教会などの建築や諸々の像として「見えるはずの世界」

の足跡を残しました。

しかし、近代科学やそれに伴う社会の変化、そして何よりも人間の意識の变革によって「見えるはずの世界」はこれまで担ってきた宗教的役割と決別することになります。ここに「芸術」が誕生しました。新しい「見えるはずの世界」は驚きや喜びを私たちにもたらしました。かくして、芸術家は「見えるはずの世界」を創造し、私たちはそれを享受する関係が生まれました。



私は1972年、鹿児島大学に着任以来、今述べましたような意味で、美術が持つ文化的価値、そしてその教育の意義を考えてきました。その後、大学院の設置などが理由となり、広島大学、そして鳴門教育大学と異なる3大学に籍を置き36年の長き日を勤務できたことを幸いに思っております。また、本学では着任浅い日から幼稚園長、図書館長、養護学校長など身に余る要職を拝命し恐縮の限りでした。大学はまだまだ受難の日が続くことと思われまふ。皆様のさらなるご健闘を祈念してご挨拶に代えさせていただきます。





退職にあたって

お世話になりました

◆ 言語系（国語）教育講座 松原 一 義

海と山の自然が豊かで、見渡せば山桜が満開の鳴門教育大学へ赴任してきて以来、はや17年が過ぎました。研究室からでも小鳴門海峡が見え、この美しい大学で理想的な教育者を育成できると思いました。

あお 蒼い空 蒼い海 学びの里の春景色

思い起こせば、少人数制のゼミを開き、学生・院生とより近いところで研究教育を進めることができたように思います。現職教員とゼミの合間に全国各地の気候・風土・文化について語り合ったことも今となっては良い思い出となっています。

また、学生たちとの淡路島での合宿研修も忘れられません。新人研修、クラブリーダー研修、就職研修などで熱い議論を交わしたこと、学生と歓迎スポーツ大会でよき汗を流したことなど、次々と思い出が浮かんできます。あの時の学生たちはそれぞれの地域で活躍していることと思います。

鳴門教育大学においての様々な人との出会いは、これからの私の人生における貴重な宝物となると信じています。お世話になった全教職員の方、在校生の皆さん、卒業修了の皆さんにこの紙面をお借りして、深甚の謝意を申し上げます。

鳴門教育大学のますますのご発展を祈念いたしております。



（新入生合宿研修）





退職にあたって

「願わくは 花のしたにて 春・・・」

◆ 自然系（理科）教育講座 村田 勝 夫

平成16年4月9日～10日南淡路の国民休暇村で新入学生研修が行われたときのことです。平成16年度理科コース入学の新入生11名と共に研修に参加いたしました。前日たまたま学生食堂で生活・健康系（家庭）教育講座の渡邊廣二先生とご一緒になり過去の思い出話から、休暇村の桜の下で学生と弁当を食べることを渡邊先生に勧められました。当日まさに満開の桜から落花が始まり始めたころでした。コース別の新入生が各先生を交えながらグループになって土手の桜の下に陣取り、本当に桜の花が散りゆくなかを、宿から頂いた昼食の弁当に舌鼓を打ったものでした。平成16年度入学生が卒業するのは、私と同じ退職の季節という巡り合わせにもなったわけです。

題目の句は、山家集にある西行法師の歌、「願わくは 花のしたにて 春死なん そのきさらぎの 望月の頃」から、一部ちょうだいいたしました。陰暦の如月の望月といえは、時によっては新暦の3月や4月の桜の季節に当たります。文治6年の2月16日に西行は亡くなったといわれております。満開時の桜が、一般に褒め囃されますが、散った後の花むしろの様もまた奥ゆかしいものです。平成18年の桜の季節には、徳島城公園の桜が散り染めて地面を花むしろに染め、且つ地上に盛り上がった桜の根が絵模様のように浮きあがって見えるのを目にしました。桜の下の花むしろも、また桜の美学でしょうか。

美郷村の県道・神山川島線に桜で有名な「チェリー・ロードライン」があります。地元で篤志家の村田芳久氏が34年間に、2000本の桜を植林した結果、見事な桜ロードができています。一昨年の桜の盛りの夕暮れ時に、その峠で桜の幻想的なシーンにお目にかかりました。峠には3本の桜が咲いており、花曇りの空に浮きあがっておりました。休憩には格別の場所であり、そこ

からの川島に至る坂道もまた桜尽くしであり、素晴らしい展望が開けます。

平成19年の春にもまたみごとな桜にお目にかかりました。四国電力からの冊子「よんでんだより」の表紙に、立派なしだれ桜の写真が使われていました。裏の脚注を見ると、川井峠とあります。地図で調べると、国道438号線に神山町から木屋平村にかけて川井峠というのがあります。まだ一度も足を運んでいないので、早速行ってみました。トンネルを抜けると、それはみごとなしだれ桜に圧倒されました。走行してくる車はすべて素晴らしい景色に見とれ、下車して花を愛でゆきます。実はさらに坂を下った所に、写真に出ていた一本のしだれ桜が、多くの写真家を惹きつけていました。更に木屋平村に入った所に、三木家住宅の案内の表示があります。表示に従い坂道を登ると、中腹には三木家という江戸時代の民家があり、その前に植えられているしだれ桜が圧巻で、まさに桃源郷という表現にぴったりのみごとなしだれ桜の並木でした。桜便りを紹介していると、まだ尽きない様相です。先ごろスリランカの元留学生から次のようなメッセージのメールが送られてきました。

Dear sense, did you decide to retire the duty in March? Why don't you extend the duty for one or two years?



（川井峠のしだれ桜 2007年4月）



退職にあたって

学問と教育と社会

◆ 生活・健康系（技術）教育講座 吉田 肇

この拙文を仰せつかって何を書こうかとぼんやり考えていた最近、いつもの本屋で、喜田貞吉の歴史民俗学傑作編という本を見つけ、思わず買ってしまった。というのは、小学校の頃から毎年父に連れられて櫛淵へ行き、筍を掘ったり、ヤマモモを採ったりする度に、喜田の屋敷の前を通って里山へ入った。その時父は、遠い親戚のサダキツァンという偉い学者の話をしてくれたものだった。わたしも「研究者」のはしくれとなり大学で教え始めて、サダキツァンのことを思い出し少し調べたことがある。法隆寺再建論争や差別史論もさることながら、明治国定教科書の調査委員として歴史教科書に記述した南北朝並立論が、国粹主義者の攻撃の的となり、やがては政治問題化された結果、職を辞するにいたった経過は衝撃的であった。もし彼がタイムマシーンに乗って現在を訪問したなら、歴史学者としての自己の力量とセンスに誇りと確信を持つに違いないだろうし、学問と教育と社会のかかわりについて深い教訓を教えてくれることだろう。

私は大学で一度電気工学を専攻したが、理学部へ進んで「研究者」の道を歩みたいと考えるようになった。父はその険しさをずいぶん心配したが、結局私の希望を認めてくれた。今になると、サダキツァンが父を説得してくれたと私はおもう。こうして、直接世の役に立ちそうにない極微の世界の研究をしたいと、日本で始まったばかりの高エネルギー実験物理を選んだ。その後今までに5つの実験に参加してきた。1995年以来本学で手がけたシミュレーションの研究は、医学や工学など他分野でも役立てていただき、トムソンの全科学

対象の論文格付けにも載っている。人は、「役に立つ」かどうかを後知恵でしか判断できないのかも知れない。

60年代の大学紛争の時代には、大学解体が叫ばれ多くの研究室が学生らによって破壊された。現在、グローバル化の潮流のもとで、大学は新しい解体の危機の時代を迎えていると思う。学問や教育の有用性はその時代には識別が難しい。だからこそ、先の見えないものを担うものの姿勢が大切と思う。

最後に、本学で教え、研究し、働くみなさまのご健勝を祈念しつつ、お礼の挨拶を送りたい。



（マッターホルン）



退職にあたって

附属中学校 20 年間に感謝して

◆ 附属中学校 副校長 阿部 美佐子

この3月で附属中学校を退職することになりました。

大学卒業後38年間の教職生活の半分以上の20年間に附属中学校に勤めたことになります。

初めて転入した昭和55年徳島大学教育学部附属中学校の教員構成は女性は養護教諭と私だけという状況でした。そして12年間、附属中学校では女性で初めてと言われての学級担任・学年主任を経験し、教科指導、学級経営、学年経営と多くのことを学ばせてもらいました。

教育実習では、理科が先か家庭科が先かと言われながら夜遅くまでの教材研究と模擬授業をしました。教育実習生を育てるのではなく、実習生を指導することで自分自身の指導力が向上したと思っています。

もっとも苦しかったのは研究発表会に向けての理論研究、世間がゴールデンウィークというときに、原稿締切に追われる苦しさを毎年繰り返し、公開研究授業では常に厳しい指摘を受けました。しかし、附属ということで当時の文部省主催の研修に毎年のように参加でき、県内の先生方の研修会場としてのお世話もできました。附属でいたか

らこそ、このような経験ができ、多くの先生方と知り合え、後の県教育委員会での勤務に役立ったと思っています。

8年後、再び附属中学校に副校長として帰ったとき、変化の激しい社会に伴う教育改革、国立大学法人化の波は附属にも迫っていました。中期目標・中期計画の作成、実施状況に評価を受け、それが次年度の予算に反映するなど成果と実績を求められるようになりました。「教育は国家百年の計」と言われるように、すぐに成果が目に見えて表れるわけではなく、10年・20年後に中学校での教育が生きてくる場合もあります。附属中学校は、昨年創立60周年を迎え、記念式典を行いました。10,000名を超える卒業生の多くが、附属中学校の教育を「よかった。」「自分の今をつくってくれた。」と評価してくれたことが、今附属を去るにあたって最もうれしいことです。附属中学校ならではの教育活動を今後も充実させていって欲しいと思います。そして、この4月から副校長の職はなくなり、附属中学校最後の副校長となれたことに喜びを感じています。



今、求められている教師像

◆ 教員就職支援チーフアドバイザー 榊 博

はじめに「今、求められている教師像」を都道府県の昨年度の「公立学校教員募集要項」から見ると次のようになる。

- ① 大阪府:「**豊かな人間性**(何より子どもが好きで、子どもと共感でき、積極的に心を開いていくことができる人)」「**実践的な専門性**(幅広い識見や主体的に教育活動に当たり、専門的な知識や技能に裏打ちされた指導力を備えた人)」「**開かれた社会性**(保護者や地域の人々と連携し、信頼関係を築き、学校教育を通して家庭や地域に働きかけ、その思いを受け入れていく人)」
- ② 兵庫県:「子どもたちが**自ら学び、考えることを大切にする**先生」「新しいことにも積極的に取り組む、**チャレンジ精神**旺盛な先生」「教員としての**使命感**と高い**倫理観**を持ち、保護者や地域の人々と**豊かな人間関係**を築き、共に助け合い、協力し合って、子どもたちの健全育成に努める先生」(一部省略)
- ③ 神奈川県:「子どもが好きで、**教育への熱い思い**を持っている人」「子どもたちの個性を大切にし、子どもの**心の中に入っていける**人」「**創意工夫**を凝らし、**わかりやすくてのしい授業**を展開できる人」「社会の変化や様々な**教育課題に積極的に対応**できる人」
- ④ 東京都:「教育に対する**熱意と使命感**をもつ教師」「**豊かな人間性と思いやり**のある教師」「**実践的な指導力**のある教師」
- ⑤ 京都市:「子どもの夢を膨らませ、その実現に**熱中して行動**する先生」
「子どもの**心に寄り添い、共感できる**先生」「きびしさの中にも**深い愛情**ある指導力を有する先生」



以上、5つの都府県市が求めている教員像を掲げたが他の県や市も表現はそれぞれ異なるがその内容の本質はほぼ同じである。これらをもとにして私なりに理想の教師像をまとめてみたい。なお、以下の内容は、保育所や幼稚園の教師をはじめとしてどの校種にも共通するものである。

- ① 社会人としての常識や豊かな教養
- ② 教育に対する熱い思いや使命感
- ③ 子どもに対する限りない教育的愛情
- ④ 専門的な知識と実践的な指導力
- ⑤ 教育の不易なるものを身に付け、新しい分野に挑戦する力
- ⑥ 保護者や地域の人々との豊かな人間関係やコミュニケーションを図る能力
- ⑦ 困難な課題に直面したときに発揮できる精神力や対応力

以上掲げてみたが、どの項目をとってみてもそう簡単には達成できないであろう。しかし、これから教師をめざす皆さんは、これらを目標として一歩ずつ進んでいって欲しいと願っている。人、それぞれ個性があり、長所や短所も異なるので、一様にはいかないが各人が自分の特性を生かしながら教育への夢を失うことなく前進して欲しいものである。私たちは、できる限りの支援をしていきたいと考えている。最後に、私自身の教師生活42年間を振り返ってみるとき、自分自身は努力をしたつもりであるが上に掲げた事項には、とても及ばなかったことを反省している昨今である。時既に遅しである。今となつては、これから教師生活を歩もうとしている皆さんに託することが私の切なる願いである。

皆さんの教育界でのご健闘を祈る次第である。

ALBUM

Naruto University of Education



部活でもガンバっています！

音を楽しむと書いて『音楽』

「音を楽しむと書いて音楽！」本番前、舞台裏で団員全員が手を合わせて、この言葉を叫びます。英語でおたまじゃくしを意味する“tadpole”。音符がおたまじゃくしに似ていることから、この名前がつけました。



私が一年生の頃には、「タドって何？」という言葉をよく耳にしましたが、学内でのアカペラLiveなどの影響でしょうか、最近は少しずつ、大学内のみなさんの間にも“tadpole”の名前が広まってきたように思います。

私たちは、月曜 19:30～、木曜 18:30～クラブハウスにて毎週練習をしています。合唱団の活動は、大学内の行事で歌ったり、幼稚園・小学校でのボランティア演奏、また、12月には定期演奏会を行います。たった一人の人でも、“tadpole”の歌を聴いてくれる人がいるのなら、私たちは私た

◆ 合唱団“tadpole” 山田 亜耶

ちの心いっぱい、私たちの「音楽」を伝えます。

音を楽しむことが音楽と最初に言いましたが、時には「音が苦」となることがあります。練習すればするほど苦しくなったり、プライベートでの不安が音に影響してしまったり…。けれど、独りじゃないから私たちは頑張れます。仲間たちと支えあって、「音が苦」をまた「音楽」と感じられるようになるのです。また、一度「音が苦」を知った後の「音楽」は、それまで以上の喜び、煌めきを持ちます。

音楽が大好きな人、歌うことが大好きな人、“tadpole”に興味のある人は是非遊びに来てください♪きっと笑顔になれるはず…☆
Music makes us HAPPY！！！！

〈中学校・音楽 3年〉

広げよう、手話の輪

私たち手話サークル「ぱびぷべぽ」は、毎週木曜日の午後6時30分から8時30分まで聾啞者の方を講師に招き、手話についての学習をしています。内容は、ゲームを通して指文字を覚えたり、短い文章を手話で表現したり様々です。ほとんどの部員が大学から手話を学び始めていますが、熱心に学ぶことで、コミュニケーションの手段として手話を使うことができるようになっていきます。

私も、手話を学ぶことで他大学の方や多くの聾啞者の方に出会い、多くの発見や驚きを得ることができました。

私たちは、手話コーラス、手話劇、触手話などに挑戦しボランティア活動を行っていますが、その目的は自分たちの手話技術の向上だけでなく、手話の存在を多くの人に知ってもらうこと、身近な存在であることを伝えることです。何か新しい言語を学ぼうと考えているあなた、「手話」に触れ

◆ 手話サークル「ぱびぷべぽ」 澤原 宏希

てみませんか？新しい発見や楽しみに出合えらると思います。

〈中学校・国語 3年〉



手話劇（第24回鳴潮祭）

部活でもガンバっています！

Departure's

私たち Departure's は発足から約1年という、まだ歴史の浅いサークルです。主な活動は、日曜日に行っている軽運動、毎月のボランティアに加え、夏にはキャンプ、冬にはスキー合宿をしています。

私たちのボランティア活動は、重度脳障害を持つ方とその保護者の方たちの団体であるフレンズ、または徳島病院の筋ジストロフィーの患者の方たちが結成したFCレボリューションという車椅子サッカーのチームと共に行います。どちらも月に1回程度の活動で、フレンズではレクリエーションの手伝いや介助法の勉強をしています。また、3月にはスキーツアーがあり、Departure's から数名がボランティアとして参加する予定です。FCレボリューションとの活動も患者の方たちの援助が中心です。筋ジストロフィーは全身の筋肉がだんだん弱ってしまう病気で身体を自由に動かせないため、電動車椅子で生活しています。彼ら

◆ Departure's 嵯峨山 雄 一

の手となって練習の準備などを手伝うことが普段の活動内容です。

FCレボリューションは練習の成果として昨年10月に大阪で行われた電動車椅子サッカーの全国大会に出場することができました。

Departure'sからも4名がこの1泊2日の日程に同行し、移動の手伝いや応援をしました。試合は一回戦で惜しくも負けてしまいましたが、選手たちの精一杯のプレーに胸が熱くなりました。この大会はテレビでも取り上げられDeparture'sの代表も取材を受けました。

私たちのサークルのコンセプトは「将来に向けて様々な経験をする」というものです。

これからもたくさんの活動を通して自分たちの見聞を広めていこうと思います。

〈中学校・英語 2年〉



楽しみ…entertainment

こんにちは 私達はソフトボール同好会です。今は冬なのでオフにしていますが、春になれば、みんなを誘って、また楽しくやりたいと思っています。

私達の活動日は全くランダムでみんなのしたい

という声で曜日が決まるので、やりたい日にいつでもやれます。みんな楽しくソフトボールに取り組んでいるので、やっているととても楽しいです。もちろん試



◆ ソフトボール同好会 瀬部 貴史

合をするだけでなく、ノックしたり、打ちまくったり、色々やりたいことをしています。

基本的に、楽しくやっているのですが、実際に真剣に大会に出るには人が足りなく、練習するところもきちんとないので今は少し苦しいので、今のうちとはとにかく楽しくソフトボールをやっていくつもりです。ソフトボール同好会に入っているみんなは本当にソフトボールを楽しんでやっています。

楽しいのが一番だと思っているので、みんなの意見をしっかりと取り入れていきたいと思っています。もし機会があったら見に来て下さい。一緒に楽しくソフトボールをしましょう。

〈小学校・算数 1年〉

異文化随想

色即是空

熱風を肌で感じながら

◆学校教育研究科 秋山容洋



夏の訪れを告げるジャカラ
ンダの花が散り、淡紫のピ
ロードとして人々を楽しませ
ている。今は、アガバンサス
の花がところ狭しと見られ、
大小様々の花が背比べをしな
がら自慢の花を輝かせている。
早いもので、オーストラリア・

アデレードに来て四ヶ月が経った。空港に降り
立った時はまだ冬で、寒い寒いと言いながら、大
学の寮に急いだのを昨日のように思い出す…。

こちらでは実りの多い充実した大学生活を送つ
ている。世界中から集まった学生が常に侃々諤々
の議論を繰り広げ、考えを共有し合う環境が整つ
ている。授業では、自分の意見を発言しないと出
席として認められないため、毎日予習することで
必死である。

しかし、勉強すればするほど、その成果が明確
に現れるので、よい動機付けとなることは言うま
でもない。

友達と切磋琢磨しながら、目標を達成させる雰
囲気が私の肌に合っており、毎日の授業が楽しく

て仕方ない。ルビコンを渡りきれず浮き草のよう
に、浮遊していた私の心にしっかりと目標を持た
せてくれた気がした。

可能性は無限大にある。毎日の生活に感謝しつ
つ、残りの留学生生活を充実させたい。結果の是非
を問わず、大切なのは自分を信じて、全力を出し
切ることでありと心に信じながら…。

オーストラリアの写真を毎日ブログに掲載して
いるので、時間があれば是非そちらのほうも参照
願いたい。www.yasuhiroakiyama.blogspot.com

この場を借りて、留学の機会を与えてくれた先
生方、大学関係者に心から感謝したい。

〈教科・領域教育専攻言語系コース（英語）〉



短い旅行、長い余韻…

◆ 特別聴講学生（大学間交流協定） 康 允 民

韓国の京仁教育大学校に入学して1年半、大学
校の生活にも慣れた頃、私は交換留学生として日
本の鳴門教育大学で1年間勉強することになりま
した。日本に来て1ヶ月半くらいが過ぎて留学生



のみみんなで大
阪から京都ま
で見学旅行に
行くことにな
りました。

今回の見学
旅行は私にと
って鳴門から
の初めての

お出かけでとても楽しかったんです。バスでガイ
ドさんの説明を聞いて、普通に見える道路や橋にも
日本の歴史があるのが分かりました。

今回の旅行で一番思い出に残ったのは金閣寺を
見たことです。キラキラ光る金の色がとてもきれ
いだったんです。そして漬物を作るための大きな
桶と石を見たことも楽しかったんです。お土産で
買ってきた漬物を食べると、もう鳴門に帰ったけ
ど、まだ京都にいるような気がしました。

1泊2日の短い旅行だったけど、日本のいろいろ
なことが見られて本当によかったです。

第24回鳴潮祭を終えて

◆ 第24回大学祭実行委員会委員長 橋本早菜

第24回鳴潮祭は11月11日、皆様の『拍手喝彩』に包まれて無事、幕を下ろすことができました。これはスポンサーになっていただいた方々をはじめ、学生課の職員の方々、旧実行委員の先輩方、そして円滑な運営ができるように進んで動いてくれた鳴教生ひとりひとりの協力のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。

昨年の4月から本格的に動き始めた第24回鳴潮祭実行委員ですが、この学祭にこぎつけるまでにはたくさんの壁にぶつかりました。毎年来ていただいていたチャットモンチーさんの出演辞退。それからというもの芸人を呼ぶための資金集めに奔走することとなりました。昼休み学食や売店の前でカンパを募り、たくさんの学生や職員の方に協力をしていただきました。またスポンサーも前年から40件ほど増やし、徳島市内の方までご協力いただきました。しかしまさかの交渉決裂…。このような事態のなか、時にはぶつかり合いながらも、実行委員13人がひとつになっていくのを感じました。学祭1、2週間前には毎晩全員で集まり、遅くまで打ち合わせや準備に追われました。3時や4時まで話し合いをし、係によってはそれからパソコン室で朝まで作業をするなど過酷な日々でしたが、今振り返ってみればこのときが一番楽しかったと思えます。

そして、いよいよ学祭当日。私たちは準備がなかなか終わらず朝5時解散、6時集合というスケジュールのなか、一睡もしないままこの日を迎え

ることとなりました。しかし、始まってみれば大きなトラブルもなく、誰よりも学祭を楽しむことができました。1日目の目玉は毎年恒例のかくし芸大会。何ヶ月も練習を重ねてきたダンスや劇などを、大きなステージでいきいきと披露している1年生の姿はととも輝いて見えました。

2日目は天気もよく、ステージでは各サークルの発表や国際交流フェスタが行われ、模擬店では学外のお客さんも多く、どちらも賑わっていました。

また、一時はどうなるかと思われた3日目の芸人企画でしたが、ここで鳴教の底力、団結力をみることとなりました。緊急企画として作った鳴教芸人ナンバーワンを決める『N-1グランプリ』に4年生の方の協力もあり、突然の呼びかけにもかかわらず、たくさんの方が快く出演してくださったのです。N-1グランプリ本番にはたくさんの方がつめかけ、大成功に終わり、ピンチを救ってくださった皆様のご協力に胸が熱くなりました。

この3日間は、今回のテーマである『拍手喝彩』に込められた意味の通り、鳴教生の個性や団結力が随所に発揮できた学祭だったのではないかと思います。また、この8ヶ月間の苦労は鳴潮祭を楽しんでいるみんなの笑顔をみることで、すべて大きな達成感と喜びに変わりました。ご協力いただいたすべての方に心より感謝申し上げます。

〈小学校・社会 2年〉



～第25回鳴潮祭のおしらせ～

平成20年11月7日(金)、8日(土)、9日(日)



研究室 だより

放射線と光と教材と

◆ 自然系（理科）教育講座 准教授 栗田高明

研究室が発足してから1年と数ヶ月が過ぎました。昨年4月からは、学部3年次2名と大学院1年次1名、10月には来年度大学院入学予定の留学生が研究生として加わり、総勢5名となりました。

研究内容は、放射線や光を用いた物性研究が主で、それに加えて身近な材料を用いた物理教材の開発を最近はじめました。研究テーマによっては放射線を利用するために、全国共同利用研究施設

に年に数回出張して実験を行っています。

研究室に入ってまずゼミ生に行ってもらうことは、卒業研究や課題研究に関連



する現代物理学の勉強に加えて、簡単なオリジナルの教材や実験装置の製作です。これらの作業によって学生が、装置作りに必要となる知識や技能の習得だけでなく、装置を完成させていく中で出てくる問題点をどのように解決していくのか、より使いやすいようにするにはどのように工夫するのか、などといったことが自然に身につくことを期待してはじめてものです。完成した装置は、自分自身の研究に利用できる場合もあるでしょうし、将来のゼミ生の研究にも利用できるかもしれません。今年度は、身の回りにあるものから発生している紫外線・放射線を測定する装置や、発光ダイオードを利用し光の性質を知る実験装置などを製作しています。

御礼およびご挨拶に代えて

◆ 芸術系（美術）教育講座 准教授 内藤 隆

皆さんは「デザイン」というと何を思い起こされるでしょうか？普通、車のデザインやポスターと言ったところがイメージされるものでしょう。しかし、実際は毎日の皆さんの行動にも必ずデザインが隠されています。料理の味付けにちょっとした変化をつけたり、何かの仕事をする時にどうすれば効率よく片付けられるか考えたり、こういった事全てがデザインです。

こういう事を自分だけで楽しむのは個人の勝手という事になりますが、僕らの場合これらを使って「人と人とを結ぶメディアを美的に創造し円滑化して行く」のが仕事となります（人と人を結ぶコミュニケーションを重要視する「教育」も極めて似たものと考えています）。僕の場合はたまたま得意な媒体が「グラフィックデザインが中心」になりますが、こうして見ると本当にデザインの形は多様である訳です。ですから我がゼミには、色々な道具をメディア（作品形式）として選び、挑戦してゆく学生達が揃います。家具を作る者、イラストや絵本を作る者、照明器具を作る者、パソコンでインタラクティブな遊具やアニメーションを

作る者、シンボルマークを考える者。

メディアが変われば必要な知識も多様化し、この大学のあらゆる先生のもとへ知識や技術を質問に伺いに行く事になります。この大学は教育大学ですが、僕らから見ると小さな総合大学であり、知識の宝庫なのです。特に技術面・知識面（材料費までも）で、技術講座や情報センターをはじめとする先生方に大変お世話になっています。恥ずかしながら先生方のお力無しには僕の研究室はあり得ないのです。先生方には、この場を借りて心より感謝の意を表したいと思います。今後とも何卒宜しく願います。また僕らにはアイデアを練るときも、雑学を含め広汎な知識が重要になります。これらについても随時各講座の先生方や学生さんに伺いに行くことがあると思いますので、こちらも是非宜しく願いましたたく存じます。





授業分析演習

学校教育で日常的に行われている各教科や道徳等の授業をより望ましいものに改善していくためには、まず「授業」それ自体を研究対象としなければならない。その第1歩が授業を科学的に分析することである。前半は授業分析の技法を文献講読やシミュレーション（写真1）をしながら理解



(写真1)

◆ 授業開発講座 教授 小野瀬 雅人

する。後半は模擬授業（写真2）を行い複数の授業分析技法を用いて「授業分析」の実際を体験しながら修得する。最後は分析結果をまとめプレゼンを行う。受講生は、こうした「実践的活動」を通して「学校での授業」を科学的に分析し授業改善に繋ぐ力量を修得していく。



(写真2)

法学ゼミ

法学ゼミでは、毎週のゼミで憲法学の基本書を講読しています。学生は卒業論文執筆という最終目標に向けてゼミに所属するわけですが、憲法学には、憲法とは何かという憲法原理論からはじまり、憲法史、主権論、人権論、統治機構論、憲法保障論、比較憲法論という膨大な研究テーマがあるため、そのなかから各自の卒論研究テーマを選択することは容易なことではありません。1年間という長い時間をかけて基本書をしっかり読み込み、それぞれの研究テーマを決定できるよう、勉学に励んでいます。

ゼミは毎回真剣勝負！ゼミ生は予習を欠かさず、難しい内容の基本書をバリバリ読みこなしており、私が学生から教えられることも少なくありません。

◆ 社会系教育講座 准教授 麻生 多聞

緊張感に満ちながらも和やかな、このゼミの時間は、私にとってはかけがえのない大切な時間です。



幼稚園 継承される遊びや生活

◆ 附属幼稚園 濱本 薫

新しい年を迎え、幼児たちは凧揚げや羽つき、すごろくなどのお正月遊びを楽しんだり、縄跳びや竹馬などに挑戦したりしています。どのクラスの幼児たちも、やりたいことを存分に楽しんだり、少し難しいことに進んで挑戦したりするなど、友達や先生たちとの関わりに深まりが見られる毎日です。

その中で年中児は、もうすぐ修了・小学校入学の年長児に、今までのお礼と感謝の気持ちを込めて、手作りおやつ『がんばれクッキー』を作りました。幼稚園には、毎年受け継がれている行事が数多くありますが、この『がんばれクッキー』もその一つです。おやつ部屋の先生、ボランティアのお母さんたちと一緒に、ココアとバターの型抜きクッキーを作りました。ラッピングした袋にメッセージシールも添えるのですが、「いままでありがとう」「どうぶつのお世話ありがとう」「しょ

うがっこうがんばってね」など、一人一人が思いのメッセージを書きました。そしていよいよ手渡す時には、

「どきどきするなあ」と言いながらも、しっかりとお礼の言葉とクッキーをプレゼントしました。感謝の気持ちとともに、次は自分たちが幼稚園のリーダーとしてがんばっていくんだという表情も見られ微笑ましく感じました。

多くの遊びや活動が年長児から年中・年少児へ自然と継承されていくよさを実感しています。幼稚園を巣立っていく年長児、伝統を受け継いでいく年中児たちの成長が楽しみです。



小学校 幼・小連携に思うこと

◆ 附属小学校 森田 範子

「これは、陽気な3人組、さいとマントヒヒとふくろうだよ。」「のってもいいかなあ?」「いいよ。気をつけて。」1年生と幼稚園児の元気な声が小学校に響きます。幼・小合同での学校探検は、もうすっかり小学校の春の風景となりました。私も、本校勤務3年目にして、やっと子どもの姿が少しだけ見えるようになってきました。1年生と5歳児の活動では、1年生も先輩らしく、普段とはちがう顔を見せてくれます。「あっ、この子にこんなところがあったんだ。」子どもの良さを再発見します。「こんな発見、1年生だけじゃできなかつたなあ。」気付きの広がりには驚きます。中には、立場が逆転したようなペアや、

ぎこちないペアもありますが、回数を重ねることでかわりが深まり、活動の勢いや楽しさも増していきます。急いで形だけ仲良くさせるより、子どもたちのかかわる力を信じ、待つことが大切だと気付かされます。また、幼稚園の先生の子どもへの接し方や言葉かけに、一人一人の子どもの育ちや学びを大切にしていくことの意味を考えさせられます。

幼小連携は、子どもたちのとてもよい学びの場ですが、教師にとっても素晴らしい学びの場であることを実感しています。こんな、活動を通しての実感や、教師がお互いに感じる近しさが、連携を進めていく力になっていることを感じています。



中学校

附属中学校創立 60 周年記念式典

◆ 附属中学校 大 泉 計

12月8日(土)本校体育館において、高橋学長、村田理事他、多数のご来賓の臨席を賜り「附属中学校創立60周年記念式典」を行いました。西谷同窓会会長から、「60年というのは人間で言うと、還暦にあたり、大変めでたい節目であります。この伝統ある附属中学校に在籍している喜びを生徒の皆さんは大切にしてください。」と在校生に対して励ましの言葉をいただきました。多くのご祝辞の後、篠原進太郎生徒会長が「素晴らしい伝統を受け継ぎ、これからの附属中学校の輝かしい未来にむけて私たちはしっかり努力していきます」と決意の言葉を述べました。記



け継ぎ、これからの附属中学校の輝かしい未来にむけて私たちはしっかり努力していきます」と決意の言葉を述べました。記

念式典に続いて、第11回の卒業生で元NHKエグゼクティブアナウンサーの蔭山武人氏(現広島経済大学教



授)より、記念講演がありました。「コミュニケーション・元気力」と題して、コミュニケーションの重要性をユーモアを交えながら、わかりやすくお話下さいました。

あらためて、附属中学校の伝統の重みを感じるとともに、これを将来に向けてしっかりと受け継いでいく使命を在校生、教職員一同強く認識いたしました。

特別支援学校

みんなで「レッツ!ダンス!!」

◆ 附属特別支援学校 新 田 将 人

「さあ、右手をあげて、ポーズ。」岡田先生の声が響きます。真っ暗な郷土文化会館のステージの上に小学部・中学部・高等部の児童生徒23名と教職員9名が並びました。そして幕が上がり、照明がステージを照らし、みんな一斉に踊り出しました。11月29日、今日は第41回全国女子体育研究大会徳島大会の日です。

附属特別支援学校にはスマートクラブがあります。踊るのが好きな児童生徒、教職員が昼休みに体育館に集まってパラパラを踊っています。そのメンバーを中心に9月から発表会で踊る「みんなで『レッツ!ダンス!!』」の練習が始まりました。前で踊る先生を見ながら、曲にあわせて手を上げたり、ひじを上げたり、かがんだり。みんな楽しみながら一生懸命練習しました。

そして2ヶ月経ちました。初めての大きな舞台、

たくさんの人たちを前にしながらみんな堂々と踊っています。観客の手拍子にも応援され、フロアとステージが一体になった素晴らしい踊りです。8分間一生懸命踊り、素晴らしい思い出になりました。



みんなで「レッツ!ダンス!!」

ビーナスの悩み

◆ 心身健康研究教育センター 所長 廣瀬 政雄



平成20年から定期健康診断において腹囲測定をメタボリック症候群の判定基準のひとつとするように改められました。正常範囲は男性では85cm未満、女性で90cm未満とされています。身長を無視して決めても意味がないのではないかと考える人もいるでしょうが、この基準は腹部CT検査において、内臓脂肪の面積が100cm²を超えないということから導き出されたということです。

メタボリック症候群（2005年診断基準）とは

1. 内臓脂肪蓄積
ウエスト周囲径 男性 ≥ 85 cm 女性 ≥ 90 cm
2. 高TG（中性脂肪）血症
高トリグリセライド血症 ≥ 150 mg/dl
かつ/または
3. 低HDL（HDL-C）血症
低HDLコレステロール血症 < 40 mg/dl
（男女とも）
4. 高血圧
収縮期血圧 ≥ 130 mmHg かつ/または
拡張期血圧 ≥ 85 mmHg
5. 耐糖能異常
空腹時高血糖 ≥ 110 mg/dl

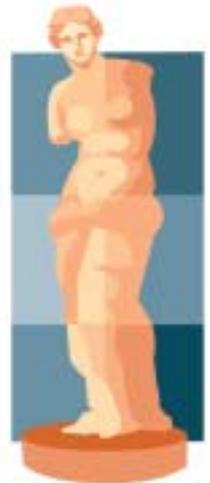
のうち、1. 内臓脂肪蓄積に加えて、2から5の項目の内、2つ以上が当てはまるものとされています。内臓に脂肪が蓄積すると、インスリン抵抗性の亢進、高TG血症、低HDL血症、高血圧、耐糖能異常などの原因となり、結果的に日本人に多い脳卒中や心臓病を引き起こしてしまいます。メタボリック症候群には予備群の規定もあり、肥満と上記5項目の内、1つが当てはまる場合です。ある調査で、40歳から74歳の日本人を調べた結果、メタボリック症候群と予備群の割合が、男性では23.7%と27.1%であり、女性では8.7%と10.8%

と報告されています。女性の方がメタボリック症候群とその予備群の割合が少ないと報告されています。しかし、大学生の年代の若い女性には別の問題があります。体重を身長²で割って算出されるBMI(body mass index)は18.5-25が正常範囲とされていますが、若い女性においてこれを下回り、低体重に分類される人が多くなっています。

思い返してみますと、私たちはミロのビーナスが女性美を代表するものと教えられてきたように思います。ミロのビーナスのBMIは22と考えられています。しかし、今の私たちにはミロのビーナスを見て、ふくよかな感じをもつ人のほうが多くなっているのではないのでしょうか。その理由は、テレビでみる多くの女優のBMIが18程度であり、モデルにいたっては17ほどしかなく、この影響によるものと言えそうです。痩身を売り物にするマスメディアによって私たちの感覚が歪んでしまっているのです。そういうことで、現在の理想の身長と体重のバランスをもつ女性は、ポッティチェリの「ビーナスの誕生」に描かれているビーナスだそうで、BMIは21といわれています。

BMIと寿命との関係では、22を長寿の理想とする時期もありましたが、最近の研究によると、22より少し大きい値の人が長生きするのだそうです。

肥満も痩せすぎもそれ自身は病気というわけではありませんが、肥満はメタボリック症候群の原因となり、痩せすぎは栄養不足を介して内分泌機能の異常、骨粗鬆症、貧血などの原因となります。バランスの良い栄養をとり、適度な運動と休養を実践して、健康を維持増進するように心がけましょう。



学生表彰について

本学には、課外活動等において、優秀な成績を修め、かつ本学の名誉を高めた場合において当該学生又は学生団体を学長が表彰する学生表彰制度があります。

本年度における表彰が決定した方々は、次の皆さんです。



| 氏名(団体名) | 所属(学年) | 表彰事由 |
|------------------|-----------------|---|
| 宇崎 貴雄 | 中学校・数学 3年 | 第23回全国教育系大学弓道選手権大会 個人戦 準優勝 |
| 加藤 由恵 | 芸術系(美術)・M2 | 第15回放美展(彫刻) 放美賞 |
| 木村 俊宏 | 生活・健康系(保健体育)・M1 | 第58回四国地区大学総合体育大会 陸上競技男子1500m 優勝 |
| 久保 菜月 | 芸術系(美術)・M1 | 第42回関西国展(絵画) 関西国画賞・ホルベイン奨励賞 |
| 久保 菜月 | 芸術系(美術)・M1 | 第3回美術作品コンクール コンクール・デ・タブロー 最優秀賞 |
| 熊沢麻衣子 | 芸術系(美術)・M2 | 第42回関西国展(絵画) 新人賞 |
| 佐伯 奏美 | 芸術系(美術)・M2 | 第62回徳島県美術展(デザイン部門) 準特選 |
| 篠原 健真 | 生活・健康系(保健体育)・M1 | 第58回四国地区大学総合体育大会 水泳競技男子800m自由形 優勝 第58回四国地区大学総合体育大会 水泳競技男子400m自由形 2位 |
| 高倉 直子 | 芸術系(美術)・M2 | あおり国際版画トリエンナーレ2007 入選 ほか |
| 多川 弘晃 | 芸術系(音楽)・M2 | 第54回徳島県音楽コンクール(声楽部門 大学・一般の部) 優秀賞 |
| 武知 由花 | 小学校・体育 2年 | 第58回四国地区大学総合体育大会 水泳競技女子100m平泳ぎ 優勝 第58回四国地区大学総合体育大会 水泳競技女子200m個人メドレー 3位 第37回中国四国国立大学選手権水泳競技大会女子200m平泳ぎ 3位 ほか |
| 長安 宏樹 | 言語系(国語)・M1 | 第47回墨滴会全国書展 読売新聞社賞 第4回真太陽国際書道展 優秀賞 第16回全日本学書展 審査委員長推薦賞 ほか |
| 福室 千尋 | 芸術系(美術)・M2 | 第42回関西国展(絵画) 新人賞 |
| 南 和美 | 総合学習開発・M1 | 第10回コンピュータ教育実践アイデア賞 実践事例アイデア集編集委員会優秀賞 |
| 柳原 久乃 | 芸術系(美術)・M2 | 第48回日本版画会展 入選 ほか |
| 吉武 芳彦 | 言語系(国語)・M2 | 第3回マルチメディア学習教材活用国際コンテスト(日本国内の部) 優秀賞及びインテル賞 |
| 水 泳 部 | | 第58回四国地区大学総合体育大会 水泳競技女子総合2位 |
| 児童文化研究会 | | 平成19年度とくしまボランティア賞 |
| ボランティア団体 friends | | 平成19年度とくしまボランティア賞 |



(五十音順)

溝上賞

溝上賞は、本学の第4代学長、名誉教授であります溝上 泰氏の功績をたたえる顕彰事業として設けられたもので、溝上氏から寄贈された基金によって運営されており、上記の学生表彰被表彰者のうち、特に顕著な功績をあげたものの中から一人又は1団体を表彰するものです。

本年度の受賞は、次の方に決定しました。

長安 宏樹 (言語系(国語)M1)

前田賞

前田賞は、本学創設に寄与された初代学長の故前田嘉明先生の功績をたたえる顕彰事業として設けられたもので、前田先生から寄贈された基金とその趣旨に賛同された方々の御寄付によって運営されており、学業面又はスポーツ・文化面で優れた業績をあげた学部学生を表彰するものです。

本年度の受賞は、次の方に決定しました。

学 業 枠

今倉 綾美 (幼児教育・4年)

遍路文化を活かした人間教育への取組み

◆ 社会系教育講座 教授 大石 雅 章

現在、徳島県でも過疎化が急速にすすみ、地域が衰退する危機に直面している。地域の将来を担う子供たちの生活環境も変化し、通学ひとつにおいてもところによっては学校の統廃合によるスクールバス通学の浸透により、子供たちが地域社会と触れ合う機会は減少していると聞く。このような地域の状況を鑑みれば、将来にわたって生き生きとした地域をいかに創造しつづけるか。そのことは待ったなしの問題として私たちに迫っている。

地域を活性化するためには、まず人々が育んできた生活や文化をよく知ることが不可欠である。そこで、遍路文化を活かした研究教育活動をすすめ、地域社会を担う人の教育をめざして、平成19年度文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(略称「現代GP」)に、「遍路文化を活かした地域人間力の育成ー歩き遍路による『いたわり』の情操教育と遍路地域の『まるごと博物館』構想」を申請し、採択された。

すでに、本学では、平成13年度に「四国遍路八十八箇所総合的研究」プロジェクトが立ち上げられ、四国遍路研究が本格的にすすめられてきた。その研究成果は、講演会やシンポジウム、展覧会(文化の森)、報告書『四国遍路の研究』ⅠⅡ

Ⅲなどを通じて、ひろく社会に公開されている。人々の関心は高く、講演会やシンポジウムには150名から200名の参加者があり、また展覧会の観覧者数は約7,200名に達した。

また、プロジェクトメンバーは、研究活動の一環として行った歩き遍路を通じて、お接待など地域に息づく遍路文化を肌身で感じ、その経験を踏まえて、平成17年度から2泊3日の歩き遍路体験を組み込んだ大学院授業「四国遍路と地域文化」を開設し、遍路文化の基礎学として学部授業「阿波学(四国遍路)」を実施した。また同年度から「鳴門教育大学 教育と学校を考える会」は、小学生・中学生を対象に2泊3日の歩き遍路体験(大学開放事業)を行っている。わずか2泊3日の体験の中で、お互い知らない子供たちが協調し助け合いながら目的を達成する。ボランティア学生も含めてたくましく成長する姿を目の当たりにして、効率主義重視の近代教育が失ってきた人間教育の大切さを痛感した。

遍路文化を活かした研究教育活動は、GP予算を得てさらに全学的な取組みへと発展しつつある。多くの人々と協働して少しでも人間教育に貢献できればと思っている。



大学院授業「四国遍路と地域文化」(太龍寺にて)

図書館だより

卒業・修了後の図書館の利用について

卒業・修了後も図書館を利用することができます。利用方法としては、以下の2つの方法があります。

◎来館しての利用

図書の貸出、館内資料の複写等ができます。

図書の貸出希望の場合は、身分証を持参してください。「卒業生・修了生利用証」を発行いたします。（その際には、卒業生・修了生であることを申し出てください。）

◎非来館での利用

図書の非来館貸出サービスを行っています。

これは事前に利用登録をした利用者から申し込まれた図書について利用者へ郵送等により貸出を行うものです。なお、貸出にかかる費用は申込者負担となります。

貸出手続きの詳細については、図書館ウェブページ (<http://www.lib.naruto-u.ac.jp/>) のサービスガイド→「卒業生・修了生・一般利用の方へ」

→「非来館貸出」

をご覧ください。電話でお問い合わせください。

(TEL 088-687-6156)

* 来館貸出、非来館貸出ともに図書の貸出冊数・貸出期間は以下のようになっています。

| 貸出冊数 | 貸出期間 |
|------|-------|
| 5冊以内 | 1か月以内 |

※卒業・修了後は雑誌の貸出ができません。

各種ガイダンスについて

図書館では、学内の方を対象に下記の期間にデータベース検索や、雑誌論文などの収集を手助けする各種ガイダンスを実施しています。

詳しい日時などは、図書館掲示板、院生研究室などに適宜掲示いたしますので、ご確認の上、お申し込みください。また、それ以外でも相談を受け付けておりますので、平日の17時30分までにカウンターへお越しください。

4月／新入生のための図書館オリエンテーション

7月～9月頃／情報検索ガイダンス

(大学院生、学部生、教員対象)

10月頃／論文作成における図書館の利用法ガイダンス

(大学院生、学部生、教員対象)

鳴門市立図書館との連携・協力活動

鳴門市立図書館と資料の相互利用、子育て支援と読書推進活動等の地域連携事業について協力活動を行っています。

資料の相互利用では、鳴門市立図書館にある図書の借用・返却を大学図書館カウンターで受付ます。

また、利用者自身が徳島県立図書館で借りた図書の返却も受付ます。

なお、当面は週1回の配送システムのため、返却日のタイムラグが生じる事もありますが、新しい「相互貸借」システムを大いにご活用ください。



学生会・院生会だより



巡る季節 ～出会いと別れ～

◆ 学生会会長 與那嶺 裕 太

この時期、鳴門教育大学を赤や黄色で賑わせてくれた木々たちもすっかり彩りをなくし、人気の少ないキャンパスを、まるでまっくろくろすけみたいに移動する落ち葉たちが、優しくった先輩たちの卒業を暗示しているように思えてしまう。私たちが入学してからずっと優しくしてくれた先輩たちを「あと一年だけでも」と、引き留めたい気持ちは、単に寂しさだけでなく、卒業と同時に巡ってくる最高学年の重圧と、教採・就職活動という厳しい冷たい現実から逃げたい気持ちも含まれている。このままではいけないと頭の中では分かっているけど、もう少し暖かい布団にくるまれているという気持ちが肥大していく。もうす

ぐ鳴教大から巣立っていく先輩たちを笑顔で見送ることが、私たちの未来へ進む第一歩であり、「次は私たちの番だ!!」と、声を大にして叫んで教採・就活への決意表明をしよう。そして、やがて入学して来る希望いっぱいの新生に、三年前の自分を重ね、これから待っている教育実習の楽しさ・厳しさや鳴門の美味しい食事処を伝えていこう。



季節は巡り、春はもう、そこまで来ている。

厚い布団はベランダに干して、窓を大きく開けて、季節の風を感じよう。

〈中学校 国語 3年〉

仲間とともに

◆ 院生会会長 南 和 美

振り返ってみれば、あっという間の1年間でした。6月16日のソフトバレーボール大会に始まり、7月4日の国際交流パーティー、10月27日のソフトボール大会と、3つの大きな行事を無事に終えることができました。特に、ソフトボール大会では悪天候に見舞われ、ご迷惑をおかけ致しました。それにも関わらず、開催することができたのは、院生会理事の方々をはじめ、院生の方々のご協力があったからこそと改めてお礼申し上げます。



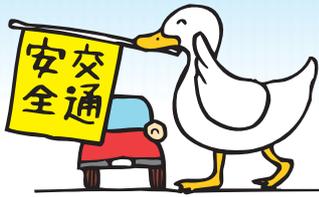
ソフトバレーボール大会

さて、こうした行事での団結力はもちろんのことながら、普段の生活の中でも、私が嬉

しく感じるがあります。それは、たくさんの人とつながることができたことです。構内を歩いていると「こんにちは!」と声をかけてくれる人たちがいます。コースも年齢も違う。でも、気軽に挨拶をしてくれる、そんな素敵な院生の仲間。そんなとき、私の心は温かくなります。前回の院生会だよりに「出会いの架け橋に」というタイトルで原稿を書かせていただきましたが、その体験を身をもって知るという結果になりました。

鳴門教育大学は小さな大学です。でも、そこに集う人たちは人間性豊かで向学心に溢れています。この1年でそのことを感じさせていただきました。院生会を支えてくださった全ての方に、この場をお借りして感謝申し上げます。

〈学校教育専攻 総合学習開発 M1〉



知っていますか？構内交通ルール 守っていますか？マナー

Q. 鳴教生なら、誰でも自由に駐車できますか？

- A. 駐車許可を受けていない車両は駐車できません。学生課に駐車許可申請書を提出し、許可を受けてください。また、構内での走行速度（時速20km）を遵守してください。
また、学生宿舎は大学敷地内とみなし、自動車通学は許可できません。

Q. 許可を受けたらどこでも駐車できますか？

- A. 学生のみなさんは、第1～4駐車場を利用してください。その他の駐車場は教職員用ですので利用できません。

Q. 駐車場以外の場所への駐車車両が多くて危険なのですが。。

- A. 建物周辺、クラブハウス周辺、玄関前ロータリーなどの路上駐車が目立ちますが、これは多くの人にも迷惑をかけ、また危険です。実際にこの駐車が原因で事故も発生しています。終日、路上駐車は禁止です。**予告なくタイヤロックを行う**ことがありますので注意してください。
また、身障者用駐車場には、該当車両又は特別に認められた場合以外、駐車してはいけません。思いやりの心を持って行動しましょう。

Q. 自転車・バイクはどこでも駐輪してもいいですか？

- A. 施錠した上で、駐輪場を利用してください。駐輪場以外の場所に駐輪している場合は、予告なく移動させることがあります。

鳴門教育大学 駐車場配置図 (P1～P4)



～最近の構内交通事故&トラブル事例～

- ①構内交差点で、二人乗り原付バイクと自動車の衝突事故
(原因)スピード超過&前方不注意&二人乗り
- ②外周道路を走行中の車両と、P6駐車場から出ようとする車両の衝突(P6は教職員用駐車場です。)
(原因)外周道路の駐車車両のため、死角ができており目視できなかった。
- ③駐車スペース以外の通路に駐車している車両のため、他の車両が出庫できずに多大な迷惑を被った。

- ★建物に囲まれた区域(タイル張り)へは、自動車・バイク・自転車とも進入してはいけません。
- ★本学は、他大学に比べて自由に車両の出入りができる大学ですが、反面、各自の良識が問われています。みなさんの良識に期待しています。
万が一、事故を起こしてしまった場合は、学生課まで連絡してください。

〈学生課〉

行事予定

| | |
|--------------------|----------------------|
| 4月 1日(火)～4月10日(木) | 春期休業 |
| 4月 8日(火) | 入学式 |
| 4月 8日(火)～4月 9日(水) | 新入生オリエンテーション(学部・大学院) |
| 4月 9日(水)～4月10日(木) | 新入生合宿研修(学部) |
| 4月11日(金) | 授業開始 |
| 6月17日(火) 及び 18日(水) | 附属校園直前観察実習(学部3年) |
| 8月 1日(金)～9月11日(木) | 夏期休業 |
| 8月 1日(金)～8月 7日(木) | 前期試験期間(学部) |
| 8月 1日(金)～8月 5日(火) | 前期補講(院) |
| 8月 8日(金)～8月12日(火) | 前期補講(学部) |
| 8月24日(日)～8月31日(日) | 集中講義(学部) |

学年暦

平成20年度前期

| | |
|---------------------------|------------------|
| 9月 1日(月)及び 8日(月) | ふれあい実習(観察実習) |
| 9月 2日(火)～9月 5日(金)及び 9日(火) | |
| 9月 1日(月)～9月12日(金) | ふれあい実習(交流実習) |
| 9月 1日(月)～9月12日(金) | 保育所実習Ⅰ(学部2年) |
| 9月 1日(月)～9月12日(金) | 保育所実習Ⅱ(学部4年) |
| 9月 1日(月)～9月12日(金) | 教員インターンシップ(学部4年) |
| 9月 1日(月)～9月28日(日) | 附属校園実習(学部3年) |
| 9月12日(金)～9月30日(火) | 集中講義(院) |
| 9月25日(木)～9月26日(金) | 2年次合宿研修(学部) |



学年暦って何?
大学の年間行事計画です。この他にも様々な行事がありますので、掲示等で随時確認する習慣をつけましょう。

就職支援行事予定

※詳細は就職支援室で確認しましょう。

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 4月 9日(水) | 教員採用試験対策説明会, 教採対策ガイダンス(実践編) |
| 4月中旬 | 教員採用試験説明会(大阪市) |
| 4月下旬 | 教員採用試験説明会(神奈川県) |
| 4月26日(土) | 教員採用模擬試験 |
| 5月上旬 | 教員採用試験説明会(京都市) |
| 5月中旬 | 教員採用試験説明会(徳島県)(兵庫県) |
| 5月24日(土) | 教採実技ガイダンス(1) |
| 5月下旬 | 教員採用試験説明会(神戸市) |
| 6月14日(土) | 教採実技ガイダンス(2) |
| 6月上旬～ | 教採実技ガイダンス(3) |
| 6月下旬～ | 教採実技ガイダンス(4) |
| 7月 2日(水)～ | 教採対策ガイダンス(直前編) |
| 7月上旬 | 教採実技ガイダンス(5) |
| 7月下旬 | 教採2次対策ガイダンス |
| 8月中旬 | 教採2次対策ガイダンス |

学生会・院生会主催の行事予定

| | |
|------------------------|------|
| ★ サークル紹介(学生会) | 4月8日 |
| ★ ソフトバレーボール大会(院生会) | 6月 |
| ★ ソフトバレーボール大会(学生会) | 6月 |
| ★ 国際交流親睦パーティー(院生会) | 7月 |
| ★ サマースクール in 北灘西小(学生会) | 8月 |

投稿 かんたんレシピ

- ① フランスパンを2cm厚に切って、2分トーストする。
- ② ニンニクのかけらを半分に切ったものを表面にこすりつける。
- ③ 続いてトマトを半分に切ったものをグシュグシュと塗りつける。
- ④ 軽く、塩と黒こしょう(粗挽き)をふる。
- ⑤ 生ハムを1枚載せて、パセリやバジルの粉末を振る。

★コメント

かんたんでおいしいです。ぜひ一度お試しください。

(N . T)



編集後記

「学園だより」第57号をお届けします。

学部卒業生の皆様、また大学院修了生の皆様、おめでとうございます。さまざまな思いが皆様の胸に去来していることでしょう。この時機に臨んで、学業の成果はもちろんですが、ここに至るまでの過程も貴重なものといえます。「人間は、努力する限り、迷うものである」とは、ゲーテのことばであります。ここまで歩んでこられる中で、どのようなことを感じ、どのように考え、どのようなことに至ったかという過程がこれから生きる上での財産となることでしょう。

今号は、主に年度末を迎えた内容としました。編集に携わり、ご執筆いただいたお一人お一人の原稿にこめられた思いや願い、とりわけ、人間として生きていく上で何を拠り所とされ、何を大切にされているのかが伝わってまいります。このようなメッセージを受けとめて、鳴門教育大学が、ますます豊かな学びの場となり、新たな出会いの場となりますことを願っています。

お忙しい中、ご執筆いただきました皆様に心からお礼を申し上げます。

(Y. K.)

☆裏表紙 第24回鳴潮祭マスコットキャラクター「クレヨン^{なる}鳴ちゃん」

多数の応募作品の中から、選ばれたのは、鳴門西小学校 花補佐真穂ちゃんの作品です。

鳴ちゃんは、大学祭期間中、キャンパス内に登場し、愛くるしい姿を披露しました。

「教育の一番札所」

標語は、「教員養成は鳴門から、そして全国へ」という意を込め、
本学としての使命と責任を明らかにするため、「教育の一番札所」とした。



編集 鳴門教育大学学生支援委員会
発行 鳴門教育大学教務部学生課
発行地 鳴門市鳴門町高島字中島748番地
☎088(687)6118
<http://www.naruto-u.ac.jp/>

